

自民党市民クラブ市議会報告

執筆責任者

箕面市西小路4-6-1

Tel 724-6700

中井博幸



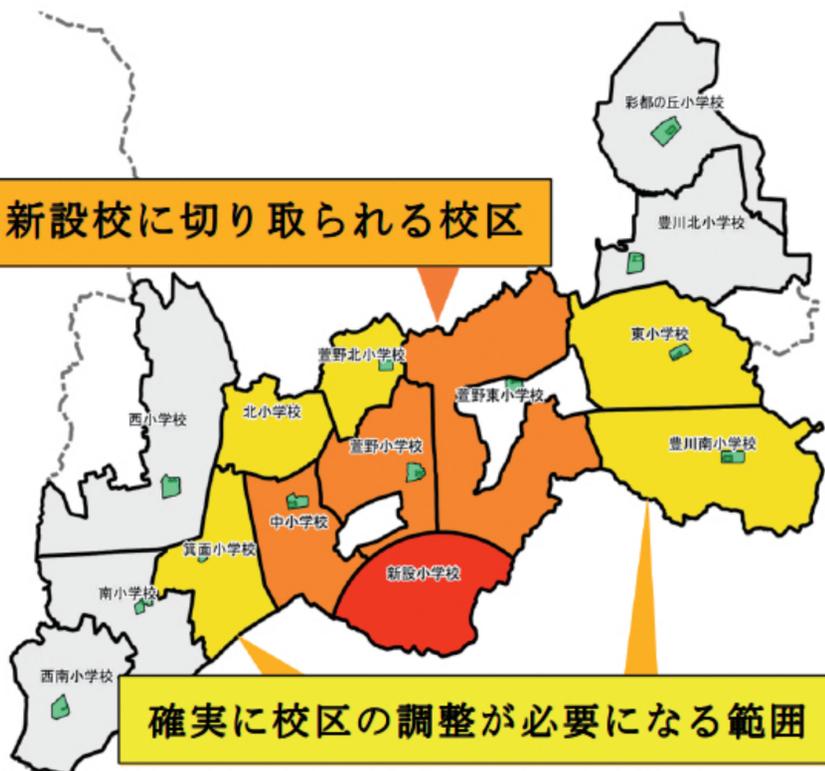
この報告紙は政務活動費を使い作成しました

校区調整に関する分析結果について

箕面市は、北大阪急行線の延伸に伴う新駅の誕生で、市の中央部の人口増加が見込まれています。既存の小学校から遠く、人口が増加する船場地区に新設校を作る計画です。

新設校ができることで、いま船場地区の子供たちが通っている小学校との間で校区調整が必要になりますが、子供たちの教育環境にも配慮する必要があります。新設校ができることで、児童が減る学校と、その隣接する学校との間で児童一人当たりの学校敷地面積や校舎の面積に大きく差がでないように調整が必要です。箕面市はこの機会に大規模な校区の見直しを実施しようとしています。

新設校に切り取られる校区

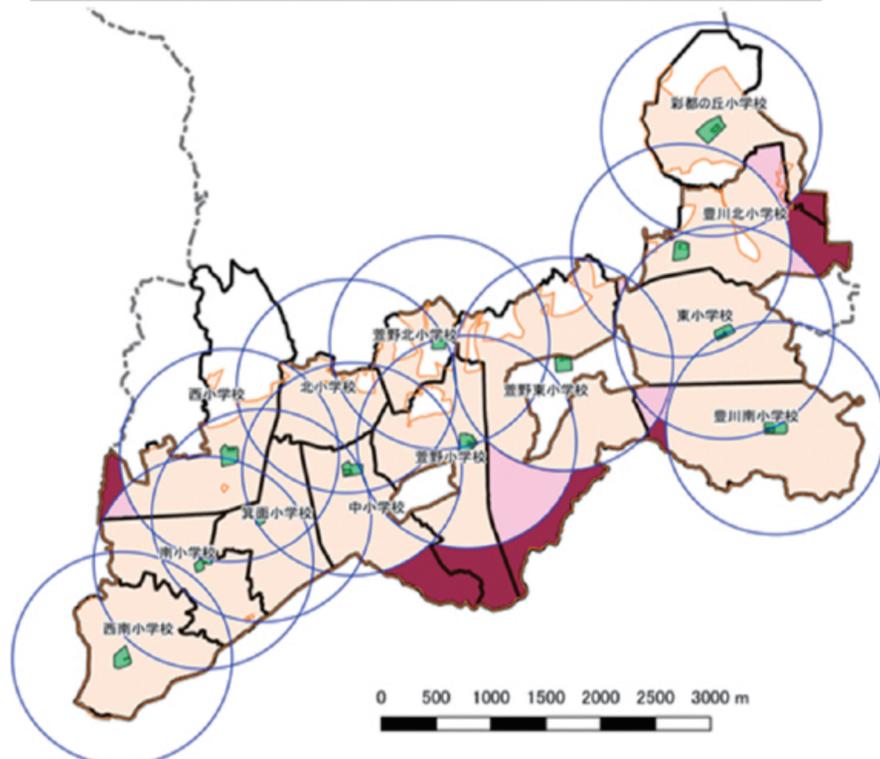


確実に校区の調整が必要になる範囲

校区の見直しは、多方面に大きな影響を及ぼしますので度々行うものではありません。今回の見直しは、学校の分布状況から見て最終形になると思うので、将来の人口推計を十分検討して決定する必要があります。

船場地区に住む子供たちは、他の地域の子供たちに比べ小学校までの距離が遠く、通学距離が課題でした。

各小学校を中心にした半径1kmの円



校区調整で配慮すべきこと。

1. 通学条件
歩いて安全に通学できるよう通学距離に配慮する
2. 児童・学級数
学校により児童数が極端に多すぎたり、少なすぎたりしないよう配慮する
3. 教育環境
人口の増減を見込んで生徒一人当たりの学校敷地面積や校舎面積に応じた校区の規模にする
4. 児童への影響
きょうだいで学校が分かれないう通学校が変わるタイミングに配慮する
5. 地域活動
様々な校区単位の地域活動(守る会等々)に支障が生じないよう配慮する

一般質問で取り上げたのは大阪府が整備を予定している 「豊亀線の自転車専用レーンの課題」について

平成17年ころ、箕面市の要望を受け大阪府が、府道豊中亀岡線（豊亀線）の市役所前交差点以北で車道を削り歩道を広げる工事を行いました。この区間の広い歩道が醸し出すゆとりが、箕面市の「シンボルロード」として愛され、まちづくりに活かされています。



大阪府は、道路交通法の改正を受け歩行者と自転車の接触事故を無くすため、平成26年度に豊亀線の牧落交差点以南に自転車走行レーンを整備しました。



この歩道は自転車の走行が認められているので、自転車利用者は歩行者に気を配りながら走行しています。一方、車道が削られたことで、スーパーや郵便局の駐車場に入るための待機車両と、違法駐車をする車を避けるため車両の走行に支障がでて、この区間の交通渋滞は常態化しています。この渋滞が豊亀線の牧落交差点まで伸びることも珍しくなく、市道中央線が渋滞する一因にもなっています。



大阪府は豊亀線の牧落交差点以北も今年度中に自転車走行レーンを整備する予定です。豊亀線の市役所前交差点以北は歩道の拡幅で自転車も歩道を走行することが認められていますが、自転車走行レーンが整備されると自転車は主にそこを走らなくてはなりません。削られ狭くなった車道に自転車走行レーンを設置すれば、道路わきに駐停車している車を避けようとする自転車と自動車の事故が起こりかねません。6月議会の一般質問でこれらの問題点を指摘し、大阪府との事業見直しに向けた再協議を求めました。